

平成27年度スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

受託者名	佐賀県	実施校名	武雄市立若木小学校
学校のホームページアドレス	http://cms.saga-ed.jp/hp/wakaki-takeo-e		

1 取組テーマ（中心となるテーマ：食と健康）

「ICT等を活用した食育」を通して児童生徒（保護者）の生活習慣を改善する取組

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置人数	1人
配置されていない場合の対応状況	

3 推進委員会の構成

委員長	澤野 香代子	元西九州大学特任教授
委員	江口 陽子	鳥栖市立弥生が丘小学校教頭
委員	小澤 智子	協力企業代表株式会社タニタ
委員	浦郷 究	武雄市教育委員会教育長
委員	徳永 貞康	武雄市教育委員会学校教育課長
委員	西村 政彦	西部教育事務所指導主事
委員	山口 環	武雄市教育委員会指導主事
委員	石丸 大輔	武雄市教育委員会副主幹
委員	真崎 和則	武雄市役所暮らし部暮らし政策課食育係係長
委員	小柳 和枝	J A佐賀武雄支所生活指導員指導課長代理
委員	山崎 健彦	武雄市立若木小学校校長
委員	河野 ひろ子	武雄市立若木小学校栄養教諭
委員	幸尾 美由紀	武雄市立若木小学校養護教諭
委員	楠村 信英	武雄市立若木小学校育友会会長
委員	林 正昭	武雄市立武雄北中学校校長
委員	江口 智恵子	武雄市立武雄北中学校養護教諭
委員	久保 廣之	若木町区長会会長
委員	笠原 國好	若木町公民館館長
委員	三上 智一	佐賀県教育庁学校教育課保健体育室長
委員	川村 喜洋	佐賀県教育庁学校教育課保健体育室健康教育担当主幹
委員	古賀 路子	佐賀県教育庁学校教育課保健体育室健康教育担当指導主事
委員	川橋 誠信	佐賀県教育庁学校教育課保健体育室健康教育担当指導主事

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
株式会社タニタ	健康セミナー開催、ソフト作成、データ分析、報告

5 実践内容

事業目標

ICT等を活用しながら児童生徒（保護者）の食習慣をはじめとする生活習慣を改善し、健康な身体の育成を図る。

評価指標

- ①食習慣を改善しようとする意欲をもつ児童を100%にする。
- ②食習慣(食事内容・食事量・マナー)を改善した児童が前年度比20%増加する。
- ③食習慣を改善した保護者が前年度比20%増加する。
- ④児童の運動習慣(歩数・運動量)を改善した児童が前年度比20%増加する。
- ⑤食習慣を改善する生徒が20%増加する。

評価方法

- ①「わかきっ子食育タイム」や「課題解決型授業」の振り返りカード、食育アンケート調査。
- ②タニタ株式会社（以下「タニタ」とする）と連携したタブレット端末（以下「タブレット」とする）を使った食事調査及び体組成測定、全家庭への食育アンケート。
- ③学校評価アンケート調査、食育アンケート調査。
- ④歩数計の記録、スポーツチャレンジでの記録の伸び、食育アンケート調査。
- ⑤食育アンケート調査。

評価指標を向上させるための仮説(道筋)

- ①「わかきっ子食育タイム」や「課題解決型授業」「5校時給食」での食に関する指導の時間の取組により100%の児童が食習慣を改善しようとする意欲をもつことができるであろう。
- ②タブレットを使った食事調査や「わかきっ子食育タイム」「わかきっ子食育ノート」を充実させ、活用することにより前年度比20%増の児童が食習慣を改善するであろう。
- ③タニタや学校医による講演会及び児童自身が獲得した食育知識を保護者に伝達させる機会を設定することにより保護者自身の食改善が前年度比20%増加するであろう。
- ④児童が装着している歩数計で毎日の歩数を測定したり、スポーツチャレンジに取り組んだりすることにより運動習慣の向上が前年比20%増加した児童が育つであろう。
- ⑤近接する武雄市立武雄北中学校と連携し、若木小学校で行う「食習慣に関する課題解決型授業」を中学校で行うことにより、生徒の食習慣の改善が図られるであろう。

実践内容

具体的な取組

- ①-a: 「わかきっ子食育タイム」や「課題解決型授業」において、食生活を改善する意欲をもつことができているかを評価できる振り返りカードを作成し、実施した。
- ①-b: 食習慣改善の方策として、目標・方法を明確にした年間計画を作成し、「わかきっ子食育タイム」の時間を低学年は「特別活動(学級活動)」、中・高学年は「総合的な学習の時間」に位置付けた。
- ①-c: 食習慣改善の方策として、「マナー・準備・片付け・栄養バランスなど」について3分程度で取り組める年間計画を作成し、担任・栄養教諭・養護教諭が指導する時間を武雄市独自で取り組んでいる「5校時給食」の時間に位置付けた。中学校においても同様とした。
- ①-d: 食育アンケートに食習慣を改善しようとする意欲があるかを評価できる項目を設定し、実施した。

- ②-a : 食習慣改善のため、毎日の食事内容を記録するためのタブレットで使用できるアプリをタニタと連携して開発し、結果をタニタで分析するとともに児童・保護者へ知らせた。
- ②-b : 食習慣改善のため、「食・マナー・感謝の心など」について考えたり、実践していくための知識と方策を学んだりした。そこで、目標・方法を明確にした年間計画を作成し、さらに月1回の「わかきっ子食育タイム」で担任・栄養教諭・タニタ・学校医などによる指導・講話を行った。
- ②-c : 食習慣改善のため、学年別に食に関する到達目標を設定するとともに担任・栄養教諭が指導を行う「わかきっ子食育ノート」の内容を拡大、充実させた。
- ②-d : 食習慣改善のため、「わかきっ子食育タイム」や「わかきっ子食育ノート」で活用できる教材をタニタと連携して開発した。
- ③-a : 保護者の食習慣改善のため、栄養教諭・タニタ・学校医による食育講演会を行った。特に、地域連携も考慮し、地域住民参加とした。
- ③-b : 2年間の食習慣・運動習慣の改善のための方法・方策を公開する「実践発表会(平成28年1月29日)」を実施した。この取組は、学校関係者及び小中保護者・地域住民への広報活動として位置づけた。
- ④-a : 運動習慣改善のため、「歩数計」を使い、測定した毎日の歩数をタニタへ送り、分析結果を児童・保護者へ知らせるとともに、月1回の「わかきっ子食育タイム」による指導を通して運動することの大切さを理解させ、実践へと結びつけた。
- ④-b : 運動習慣改善のため、佐賀県教育庁学校教育課保健体育室が行っている「スポーツチャレンジ」に全学年で取り組み、身体を動かすことの効果などへ導くとともに、評価指標一定量の運動量を確保した。
- ⑤-a : 中学生対象の「食育アンケート」を実施した。
- ⑤-b : 中学生の食生活改善のため、スポーツ栄養を中心とした「課題解決型授業」を実施した。
- ⑤-c : 中学生の食習慣改善のため、栄養教諭・タニタによる食育講演会を行った。特に、地域連携も考慮し、地域住民参加とした。

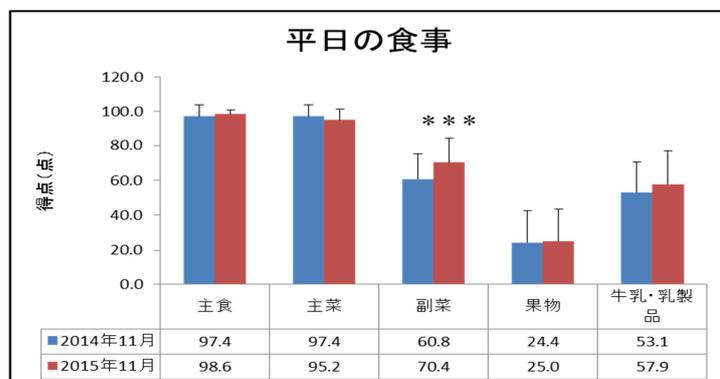
6 成果

①評価指標1 : 食事のマナー、食事内容、ものを大切にする、感謝の気持ちを伝えるなどの項目において食習慣を改善しようとする意欲をもつ児童を約100%にすることができた。

②評価指標2 :

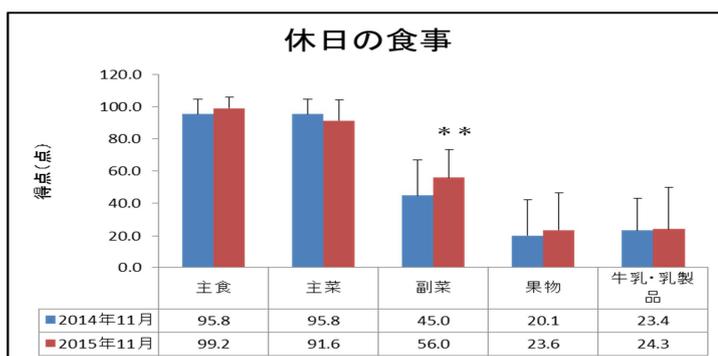
○タブレットによる食事調査では、1食の中で食べる項目「主食、主菜、副菜、果物、牛乳・乳製品」をそれぞれ調査した(例: 主食を1日3回食べると100点/日となり、さらに、副菜は毎食2品の摂取を目指したため、1日6回食べると100点/日となるように設定した)。この調査の結果、昨年の同時期に比べ副菜を食べる児童で、平日は平均約9.6点、休日で約11点の増加が見られた(グラフ1、2)。この増加した点数を百分率にすると、平日で約16%増、休日で約24%増となる。

※「*」印は有意差を表しています



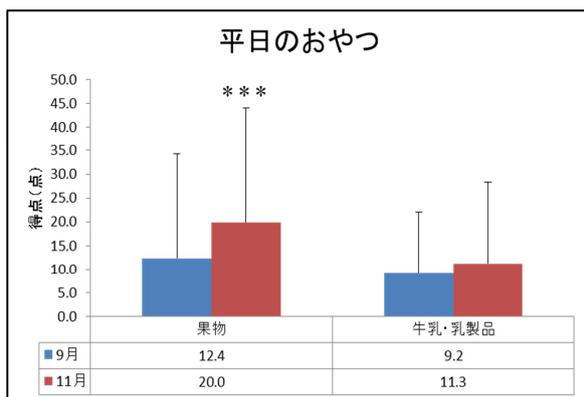
グラフ1 食事調査結果(平日の食事)

○おやつ調査では、今年度の事業開始時に比べ、果物摂取が平日では7.6点、休日では14点とどちらも有意に増加した(グラフ3、4)。この増加した点数を百分率にすると、平日で約61%、休日で約90%となる。また休日の牛乳・乳製品の摂取では、9.3点の増加が見られ、百分率にすると約77%となる(グラフ4)。

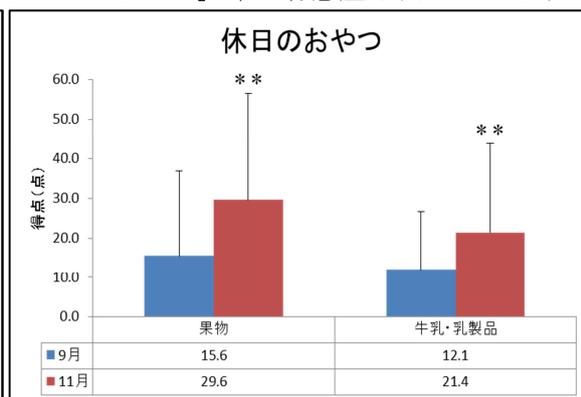


グラフ2 食事調査結果(休日の食事)

※「*」印は有意差を表しています

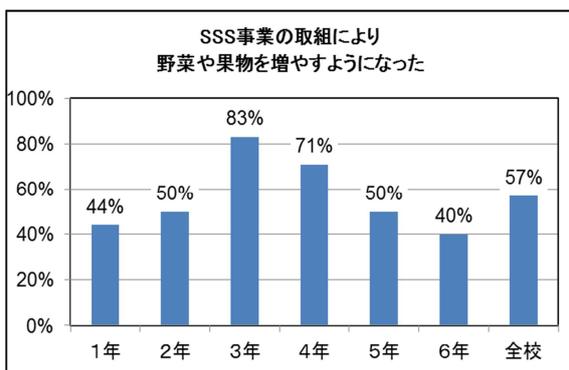


グラフ3 有意差のみられた平日のおやつ

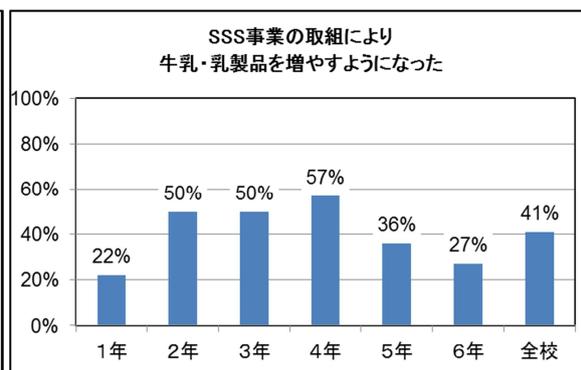


グラフ4 有意差のみられた休日のおやつ

③評価指標3：保護者の意識の変容としては、「食」についての「意識が変わった」と答える保護者が前年度比約90%以上であった。また、「食生活を見直した」と回答した保護者は約42%であった。さらに、どのような事を見直したかを調査(複数回答)したところ、野菜や果物、牛乳・乳製品を増やしたという回答が多く見られた(グラフ5、6)。この結果は、「評価指標2」の食習慣を改善した児童が増加し、食事の副菜の摂取やおやつのおやつ、牛乳・乳製品の摂取が増加したというタニタの食事解析結果とも一致している。



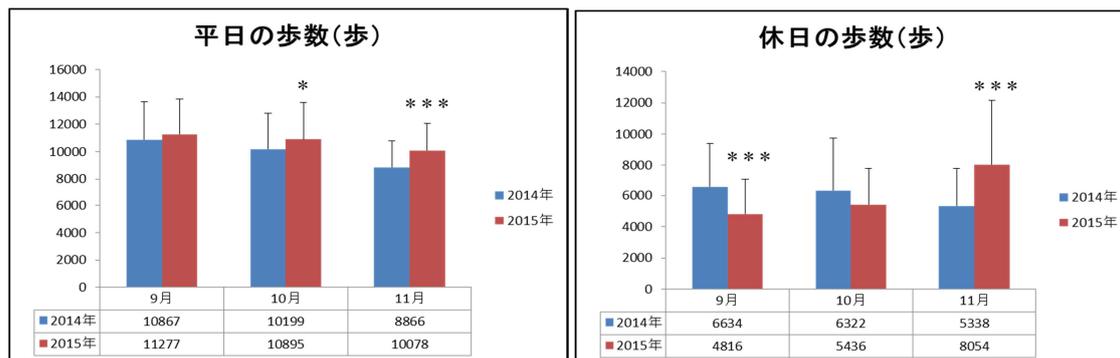
グラフ5 改善した食事内容



グラフ6 改善した食事内容

④評価指標4：平日の歩数を前年度と比較すると、10月で約7%、11月で約14%と有意に増加した。また休日の歩数では、11月が前年度比約51%と有意に増加した(グラフ7)。さらに、前年度に比べると社会体育へ参加する児童が増加したことがあげられる。このことから、運動を習慣化しようとする意欲がみられ、体育や社会体育以外で30分以上の運動を毎日している児童が前年度と比べると約7.1%増加した。

※「*」印は有意差を表しています



グラフ7 児童生徒の歩数結果の前年度比較

⑤評価指標5：生徒（武雄市立武雄北中学校）を対象とした食育アンケート結果を見ると、食育講演会やスポーツ栄養についての授業は、今後の食生活の参考になったと答えた生徒が100%。今後の生活に生かしたいと答えた生徒は約87%と高い意欲が見られた。また、中学2年生の朝食喫食率は95.1%と高く、前年度比では6.2%増加であった。

7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- (1) ICTによる発信
 - ・本校HPにて、随時取組状況などを発信した。
- (2) 文書等による発信
 - ・学校だよりをはじめ、新聞や食育関係の専門誌において情報を発信した。
 - ・本校児童が作成したリーフレットや「わかきっ子食育ノート」を集約したCDを配布し、県内外へ取組内容や資料の情報を発信及び共有した。
- (3) 講演等による発信
 - ・若木町内各種団体に対して本校の取組内容や進捗状況を随時報告した。
 - ・若木町民を対象とした講演会を開催し、本校の取組成果について報告及び、地域連携の重要性を説明した。
 - ・佐賀県小中校長会研修会や佐賀県学校栄養士会において、本校の取組内容を説明した。
 - ・長崎県平戸市で開催された「平戸市学校給食研究発表会」並びに長崎県諫早市で行われた「食に関する会議」において講演を行い、SSSについて紹介した。
- (4) 給食試食会による発信
 - ・保護者や地域（武雄市・若木町）に取組を知らせるとともに実践化に繋げるために「給食試食会」実施した。

8 今後の課題

- ①改善した食生活や運動習慣を継続していくための効果的な指導方法を検討する必要がある。
- ②「生涯食育」の見地から小中学校が中心となり、地域、家庭と連携し町内全体で食育が行えるよう、具体的な計画が必要である。
- ③ICTを利活用した開発学習教材を、県内外へ発信し、本校の取組内容及び研究成果を普及させ、さらなる食育の充実を図る。そのためにも、ICT環境が充実していない学校でも、効果的に食育が行えるような指導及び資料を提案する必要がある。